

MERS（中東呼吸器症候群）につきまして

シンガポールは2002-3年にSARS（重症急性呼吸器症候群）を経験しました。原因となった病原体は、コロナウイルスの一種でしたが、今回のMERS（中東呼吸器症候群）の原因もその近縁のコロナウイルスで、MERS コロナウイルス（MERS-CoV）と呼ばれるものです。

MERSは2012年に中東で初めて発見された新しい疾患です。2-14日間の潜伏期間ののち、発熱や咳嗽、咽頭痛で始まり、しばしば肺炎へ進展します。また、その他の複数の臓器がほぼ同時に機能不全に陥り、時に死に至ります。飛沫や接触等の濃厚接触で感染すると考えられていますが、感染経路はまだ、不明なところがあります。ワクチンや特異的な治療薬はありません。現在、世界で約1200例が報告されており、約40%が死亡しています。感染例の約85%はサウジアラビアです。

2014年9月、シンガポール保健省は、<中東地域に滞在、または、経由して帰国し、2週間以内に発熱、咳などの症状で受診した場合は、院内での感染を避けるため、速やかに、その旨を医療スタッフに伝えること>という通達をだしています。現在までのところ、現場での混乱は認められませんが、シンガポール国内での疑い例は150例ほどあったとのこと。しかしながら、確定診断された例は1例もありません。

そんな中、皆様もご存知のとおり、韓国では、中東からの帰国者を発端として感染が広まりつつあり、160名の確定診断例と20名の死亡者が出ています（6月17日現在）。感染者の入国は、今日の活発な国際間での移動を考えると、決して対岸の火事ではなく、当地でも十分に起こりうることです。

感染を食い止めにくい理由の一つとして、潜伏期が2-14日であるため、帰国してから発症する例が多く、症状も当初は普通の風邪と区別がつかないため、本人はもちろん、医師も、臨床的には診断できないことが挙げられます。

したがって、医療施設、医療従事者は、発症が疑われるすべての患者に対して、一貫した感染予防対策を講じて、感染拡大を防止しなければなりません。

そのためには、政府や医療施設だけではなく、皆様方、一人一人のご理解、ご協力が必要でありますので、下記のQ&Aコーナー、シンガポール政府の発表（大使館からの発表（日本語で解説）、日本厚生労働省の発表等を参考に行動いただきたいと思います。

Q&A コーナー

質問1：もし、中東地域や韓国に滞在、または、経由して帰国した場合で2週間以内に発熱、咳などの症状が出た場合には、どうしたらよいですか？

答え：ご自身で気がついた時点で、すぐにマスクを着用（本来は皆がマスクを携帯するのが理想ですが、）

少なくともこうした地域に出張する機会がある方は、必ずマスクを携帯してください) して、医療機関に電話でご相談下さい。医療機関は、患者さんを適切にお迎えする準備をします。連絡をせずに、医療機関に行く事は決してしないようにして下さい。タクシーやバスに乗ってとりあえず家や会社に行こうとは考えないでください。

質問 2：既にかかり具合が悪い場合はどうしたらよいですか？

答え：救急車を呼び、事情をお話ください。番号は 995 です。適切な手段で、Tan Tock Seng Hospital、または小児なら KK Hospital に搬送してくれます。

質問 3：たまたま、帰りの機内で発症したら、どうしますか？

答え：その場ですぐに乗務員に御連絡ください。〈とりあえず、到着してから〉としますと、感染を広める機会が飛躍的に増えることになってしまいます。

一人一人が自覚を持って行動することが、ご自身とご家族、ご友人、周囲の人々を守ることになります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(参考情報)

○ シンガポール保健省 HP (MERS 特設ページ)

https://www.moh.gov.sg/content/moh_web/home/pressRoom/Current_Issues/2014/middle-east-respiratory-syndrome-coronavirus--mers-cov-.html

○ 在シンガポール日本大使館の HP (上記について日本語で説明、「安全・医療情報」中にあり)

<http://www.sg.emb-japan.go.jp/index-j.html>

○ 外務省海外安全ホームページ (日本大使館 HP でもリンクを貼り、情報提供中)

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

○ 日本厚生労働省 MERS 関連ページ (Q&A 等あり)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/mers.html>

2015 年 6 月 18 日

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実 (医師)